

編集後記

『和光経済』第53巻第2号を無事に出版することができた。こうした編集後記の書き出しに対しては、多くの方から「何を今さら当たり前のことを仰々しく述べているのだ」と怒られそうだ。

ただし、今年度に関しては「当たり前」とされてきたことが当たり前にはできない。新型コロナウイルス感染症の広がりにより、いわば、非日常が強いられている。しかも、その終息はまだ見えない。

2020年度の後期に入っても、全国の大学で多くの授業はオンラインで実施されている。今年度が始まった時点で、こうした状況が一年間にわたって続くと予測していた人は稀だったのではないだろうか。

実は、今年度、和光経済編集委員会もリモートで運営されている。原稿のやり取りや校正作業、スクリーニング担当者、出版社との打合せなどもインターネットを介して行われている。こうした、昨年までとは異なった、非日常の中で、『和光経済』第53巻第2号は発行されたのである。

巻数に示されるように、和光経済は50年を超える歴史を持つ。過去半世紀にわたり、各年度に3号（場合によっては2号）の論文集を紙媒体で発行してきた。この歴史を今年度も連綿と継承することができた。このことを我々は誇りに思う。

と同時に、諸先輩方の作り上げてきたことに畏敬の念を持ち、かつ、その屋台骨を支えてきた歴代の編集委員会に感謝の気持ちを伝えたい。また、現在の『和光経済』に関わる同僚諸氏のご尽力にも心から御礼を申し上げたい。

そして、これから「当たり前」が戻って来るまで、和光大学社会経済研究所と学内外の関係各位の皆様から、更なるご支援を賜りたく、あらためてお願いをする次第である。

今回も前号に続き、普段とは趣の違った、異色の編集後記となった。ウィズコロナの状況下にある、和光経済編集委員会の活動を記録する意味からもお許しをいただければ幸いである。

(2020年11月 加藤 巖 記)

和 光 経 済 第53巻 第2号

2020年12月15日 印刷

2020年12月21日 発行

発 行 者 清 水 雅 貴

制 作 八 千 代 出 版

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-2-13

発 行 所 和光大学社会経済研究所

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘 5-1-1